

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 110 11月号

2014年11月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469
新宮図書館 TEL(0791)75-3332
揖保川図書館 TEL(0791)72-7666
御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.102

「贅沢な時間」

揖保川町 藤川 裕司

月に2、3回、娘2人と揖保川図書館にお邪魔している。5年ほど通っているので、娘たちは職員の方々と親しくなり、毎回優しくしてもらっている。おかげで、2人にとって図書館は楽しい場所だ。

僕は、子どもに古今東西の名著や読書の教養満点の本を読み、と押し付ける事はしたくない。本選びにせよ何にせよ、自分で考えて自分で決めることは大切であるし、読書は1つの娯楽として2人の中に残ってもらいたいからだ。なので、2人はそれぞれの好みで本を選び、それを一緒に読みながら家族で楽しんでいる。結果、共通の話題も増え、会話に本の内容が出る事も多い。本のおかげで父娘間のコミュニケーションは今のところ円滑だ。このまま図書館通いを楽しみながら、2人が本を好きになり読書を楽しんでくれればと思う。

しかしながら、以前と比べて上の娘は自分で本を読むことが増えてきたものの、下の娘はまだ上手く読めず、僕の膝の上で読んでくれ、とせがむことが多い。そうすると、不思議なもので、上の娘までが読んでくれとせがんでくる。3人で固まって絵本を読む父娘なんて、端から見ると微笑ましい光景だとは思う。が、1日に最大で400ページ程の音読を求められると疲れるし、僕の読みたい本も思うようには読めない。膝だって痛い。そんな何だかなあ、な悩みもあったりする。

とはいえ、いつまでも今のままのはずはない。あっという間に、僕は1人で思う存分に読書を楽しめるようになる日が来るだろう。その時にはきっと、今のこの時間がとても貴重であったと懐かしがるだろうことは、既に分かっている。しかし、そうなればそうなったで、子どもたちが、「これ面白かったよ」と、自分の読んだ本を薦めてくれることを少しだけ楽しみにしている。その時に読む本は、ひょっとすると泣けてくるようなものかもしれない。だけど、そんな読書もきっと楽しいはずだと期待している。と、強がってみる。



※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『動物園の文化史—ひとと動物の5000年』 溝井 裕一 著 勉誠出版



動物園は、野生動物を人工物の中で飼育するものだが、時代の遷移とともに施設の形や目的も変化してきた。本書では、動物園を通して人と自然の関係史を追っていく。

まずは、「動物コレクション」について。これは古代から中世にかけて存在した動物園の原型である。その起源は、メソポタミア文明の富裕層が野獣を集め、飼育するようになったもので、「見る側・見られる側」の関係は「支配する側・される側」の関係に相当した。

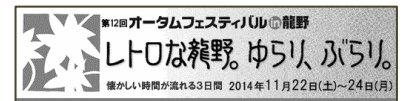
次に、「メナジェリー」。近世ヨーロッパの王たちが、自らの権威をアピールするためにつくらせた飼育舎のことで、17世紀以降は動物を集めた施設を指している。海運の発達で新たに発

見された動物たちが展示され、巡回メナジェリーでは階級を問わず珍しい動物を見ることができ、人々の自然に対する知識は飛躍的に増大した。そして研究・教育を目的とし、一般公開されることを前提として近現代に作られた動物飼育施設が「動物園」である。「動物王」と呼ばれるカール・ハーゲンベックは、「動物とひととはともにおなじ存在なのだ」と説き、鞭ではなく智による調教や、動物たちが自由に生活しているかのような印象を与える檻を使わない飼育法を取り入れた。

「動物園はわたしたちに自然との結びつきを思い起こさせてくれる、大切な『よすが』なのである」と著者は言う。いつの時代も非日常の空間で動物を眺め、大きさに圧倒され、愛嬌ある仕草に和むことを私たちは必要としているのだと気付かされる。 (新宮図書館 梅村)

トピックス

オータムフェスティバル in 龍野



レトロな龍野地区の町並みで、さまざまなイベントが開催されます。龍野図書館も会場として下記のイベントを開催します。是非お立ち寄りください。

◎貴重本「ミケランジェロ・ラ・ドッタ・マーノ、ちりめん本、三木露風書簡」一般公開

11月22日(土)・23日(日・祝) 11:00~15:00 2階 郷土資料室

◎龍野美術協会(書道・工芸)作品展

11月19日(水)~22日(土) 10:00~18:00 2階 研修室(22日のみ16時まで)

◎龍野北高等学校によるイベント

11月23日(日・祝)

- ・パネルシアター・絵本の読み聞かせ 11:00~12:00 1階児童コーナー
 - ・電子工作教室 振ると絵が見える!振ってライトを作ろう(材料費800円)
 - ・木工工作教室 木のおもちゃを作ってみよう(材料費500円)
 - ・健康チェック 血圧・肺活量・握力・BMI測定
 - ・考えるお絵かきV 食品トレーを使って自由にお絵かき
- } 2階研修室
11:00
16:00

☆いずれも、事前の申込は必要ありません

※ なお、龍野図書館は、オータムフェスティバルに伴い、23日(日・祝)は開館し、25日(火)を臨時休館いたします。

新宮図書館 読書講演会「子どもと本をつなぐために大人ができること」

子どもたちにより良い本との出会いの機会をつくるために、大人は何ができ、何をすべきなのか。豊かな言葉の体験をもたらし、心の成長に大きな役割を果たす絵本や物語について、お話を伺います。

◎講師 大澤 百世 氏(兵庫県子どもの図書館研究会会員)

◎日時 11月16日(日) 13時30分~15時 ◎場所 たつの市立新宮図書館 研修室

◎定員 40名 ◎申込先 新宮図書館

おすすめする子どもの本・102

『のろまなローラー』 小出 正吾 さく 山本忠敬 え 福音館書店

ローラーが、重いくるまをごろごろ転がしながら、道を直していました。すると、後ろから「ぶつぶつぶつ」と、大きなトラックがやってきて、「じゃまだよ、じゃまだよ。どいたりどいたり」と言ってローラーをしっかりつけ、追い越して行きました。その後も、立派な自動車や小型の自動車が、のろまなローラーをばかにしながら追い越して行きます。それでもローラーは、ゆっくりと、重いくるまを転がしながら、道を直して行きました。

ローラーが、でこぼこやまの坂道にさしかかると、さっきのトラックがパンクしていました。立派な自動車も小型の自動車もパンクしています。ローラーはみんなに、「まあまあ、それはおきのどく。しっかりなおしておいでなさい」と声をかけ、汗をかきかき、また進んで行きました。

しばらくすると、「やあやあ、ありがとうローラーくん。きみのおかげで、でこぼこみちがたいらになりますね。ほんとにありがとうローラーくん」と、パンクの直ったトラックたちがお礼を言って行きました。そして、ローラーは山の上までくると、平らになった坂道を、ごろごろ後戻りしながら、ゆっくり帰って行きました。

ゆったりした繰り返しの言葉のリズムが心地よく、柔らかなタッチで描かれた車の絵には感情や温かみを感じられます。読んであげれば3歳から。(御津図書館 西田つ)

『きかんぼのちいさいもうと』 ドロシー・エドワーズ 作 福音館書店

わたしがまだ小さくて、わたしのきかんぼのいもうとが、もっと小さかったときのこと、庭に1本のりんごの木がありました。きかんぼの小さい妹は、草の上に落ちていたりんごを見つけ、かじってみようと思いました。その時、口の中で何かが折れたような気がして、口の中に指を入れて調べてみると、小さい歯が1本ぐらぐらしていました。初めは、嫌な気持ちのしたぐらぐらの歯でしたが、ぐらぐらの歯が口の中にあるのは特別なことだと思い、パン屋さんや牛乳屋さんに見せました。ですから、きかんぼの小さい妹は、このかわいい歯がなくなるのを嫌がり、誰にも抜かせようとしませんでした。

ところが窓ふき屋さん、歯医者さんに行って診せたほうがいいよ、と言われ、歯医者さんがどんなところかを教えてもらいました。それを聞いてきかんぼの小さい妹は、自分のぐらぐらの歯を歯医者さんに見

せたくなりました。(「ぐらぐらのは」)

他にも川へお魚とりに行ったときに、川の中へ入ってはだめ、と言うのも聞かず、水の中に入り、お魚を取ろうとして転んでずぶぬれになってしまうおはなし(「おさかなとり」)など、全部で15編がおさめられています。自由奔放で少しわがままな妹が、日常生活のなかで巻き起こすハラハラさせられる出来事を、「わたし」という姉の目線で描きます。小学校1年生くらいから。

(龍野図書館 三葉)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	11月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	8日・15日 『みんな おおあくび』他
	子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	13日 『思い出のエドワード・トマス』 エリナー・ファージョン 著
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	14日 『長い長いお医者さんの話』 カレル・チャペック 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第2・4月曜日、第5日曜日(11時～11時20分)	10日・24日・30日 『バルンくん』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ ----- 土曜日(10時15分～10時45分)	1日・8日・15日・22日・29日 『ブレーメンのおんがくたい』他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第3・第4土曜日(10時30分～10時50分)	15日・22日 『三びきのやぎのがらがらどん』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第3・第4土曜日(11時～11時30分)	15日・22日 「三まいのお札」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	21日 『流れる星は生きている』藤原 てい 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	9日・16日 『わにがまちにやってきた』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	11日 『蛍の航跡』帚木 蓬生 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	8日 古文書の解説